

ほんみょう  
**本明川総合水系  
環境整備事業**

- ① 事業採択後3年経過して未着工の事業
- ② 事業採択後5年経過して継続中の事業
- ③ 着工準備費又は実施計画調査費の予算化後3年経過した事業
- ④ 再評価実施後3年経過した事業
- ⑤ 社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業

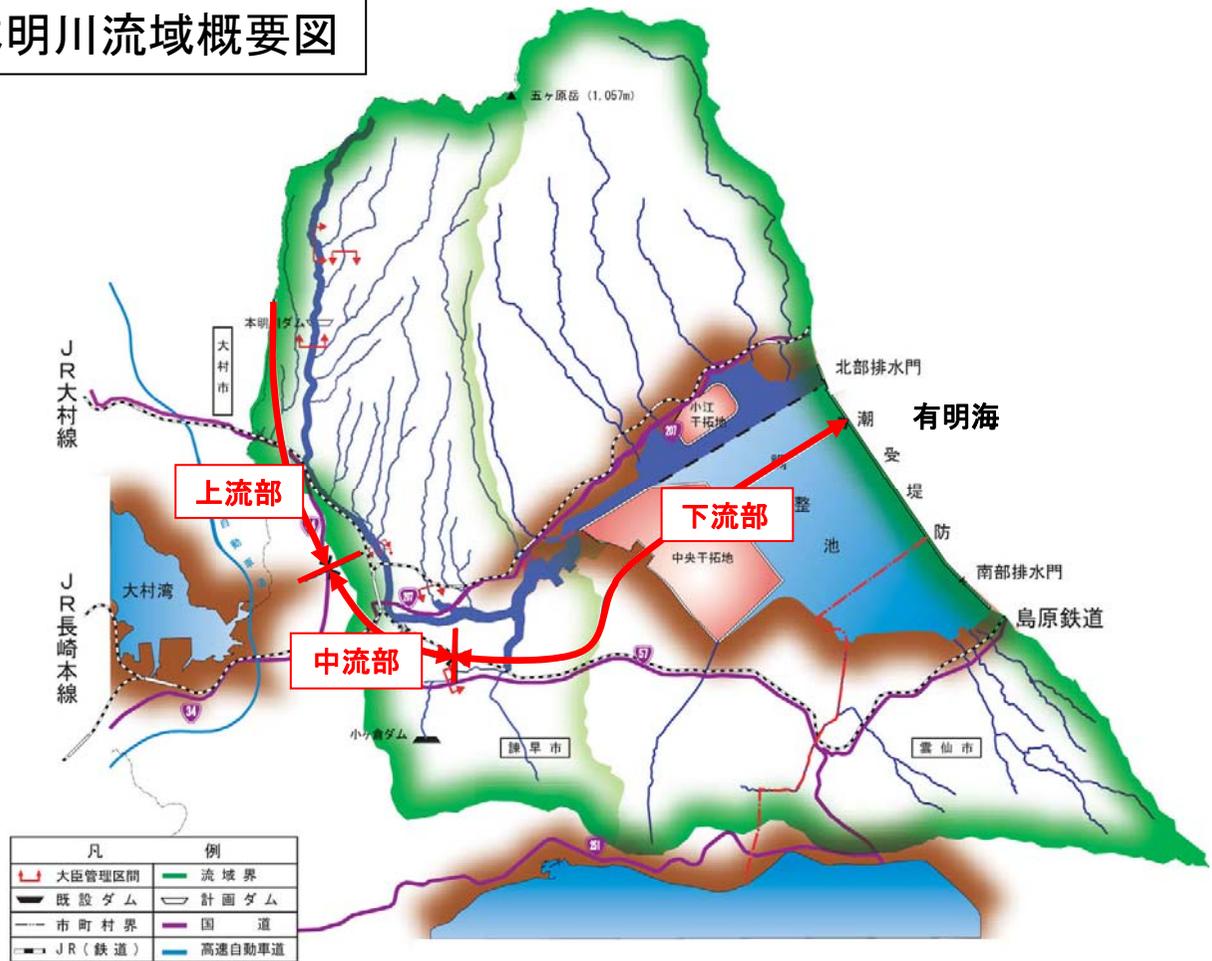


# 1. 本明川流域の概要〔本明川の概要と特徴〕

## 本明川の概要

流域面積 : 249km<sup>2</sup>  
幹川流路延長 : 28km  
流域内市町村 : 2市  
流域内人口 : 約9万人  
(平成22年国勢調査)

## 本明川流域概要図



## ■各区間の特徴

### <上流部>

・上流部には、景勝地の富川溪谷があり、四季それぞれの味わいを持つ溪谷は、自然探勝や行楽に訪れる人々の憩いの場となっている。

### <中流部>

・中流部は、諫早市街地を流れ、特殊堤区間の水辺には河川公園や遊歩道が整備され、沿川住民にとって憩いの場、安らぎの場であるとともに、散策や水遊び、釣り、各種イベント(諫早・川まつり、魚のつかみどり大会等)に利用され、親しまれている。

### <下流部>

・下流部は、干陸化した高水敷に植生が繁茂している。仲沖地区には、諫早小学校があり、中央ふれあい広場、平成11年度には桜づつみが整備され、堤防天端はサイクリングロードとして利用されるなど、市民の憩いの場として利用されている。諫早湾干拓事業により出現した広大な自然干陸地では、フラワーゾーンが整備され地域住民が主体となって菜の花やコスモスを植栽しており、開花の時期には県内外から多くの見物客が訪れている。また、干陸地の管理用通路を活用したクロスカントリーコースや長大な直線区間を有する水面を活用したポートコースが設定され、競技団体の練習や合宿、大会、地域による維持管理が行われている。

# 1. 本明川流域の概要〔本明川の利用状況〕

## ＜本明川の利用状況＞

- ◆本明川中流部の諫早市街地区周辺の河川敷や水辺では、地域住民の憩い、安らぎの場として**散策**や**水遊び**などの日常的な利用のほか、「**諫早万灯川まつり**」、「**流鏝馬**」、「**本明川魚つかみ取り大会**」等の**イベント**や近隣小学校の**環境学習**などに利用され、親しまれている。



# 1. 本明川流域の概要〔本明川の利用状況〕

- ◆本明川下流部の仲沖地区の水辺では、管理用通路や多自然護岸等の整備を行い、日常的な散策や魚釣り、自然観察、環境学習の場等として利用され親しまれており、当該地区に整備された「本明川桜づつみ」は諫早市の桜観賞のスポットになっている。
- ◆本明川下流部の干陸地では、フラワーゾーンでのコスモスまつりや管理用通路を活用したクロスカントリー競技、長大な直線区間を有する水面ではボート競技が行われ、利活用が活発化している。



本明川桜づつみ



魚釣り



ボート競技



クロスカントリー競技(大会)

# 1. 本明川流域の概要〔本明川水系の目標〕

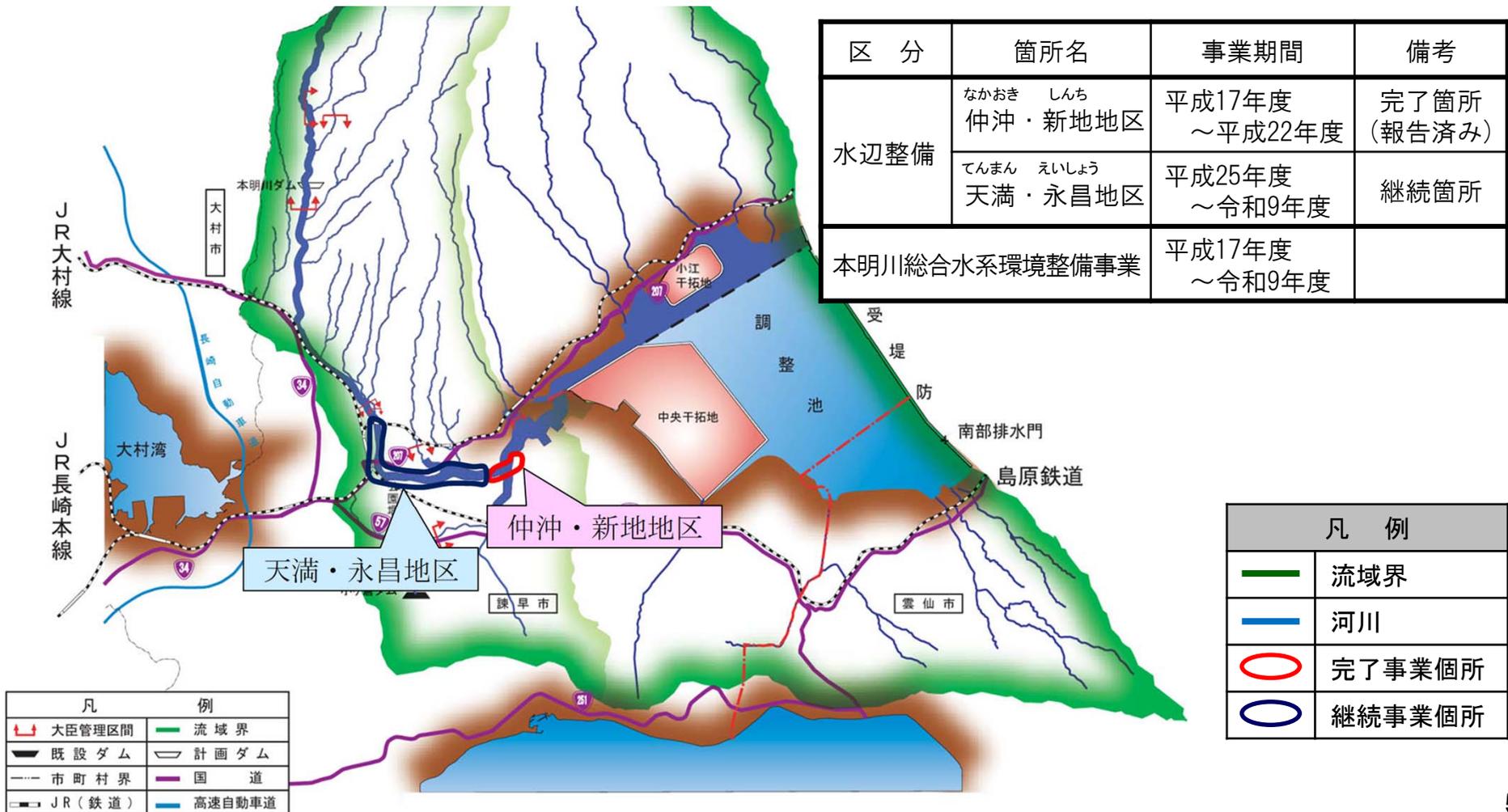
## ＜河川環境の整備と保全に関する目標＞（本明川水系河川整備計画抜粋）

- ◆ 本明川では、河川空間の利用に関し、自然と共に生きて来た歴史や文化等の地域特性を踏まえ、自然との調和を配慮しつつ環境教育の場など多様な利用ができるよう、人々が川と触れ合い、親しめる、潤いのある水辺空間の整備を目指すものとしている。
- ◆ 河川環境の整備と保全に関しては、治水・利水面との調和を目指し、上流部などでは現在の良好な河川環境の保全を目指すとともに、下流部では鳥類や哺乳類等の営巣・生息環境の保全・再生を目指すこととしている。
- ◆ 中流部においては、周辺の都市景観、天満公園、樹木、水辺等の景観特性を生かした河川景観の形成とゆとりと潤いのある快適な河川空間を創出するために、河川管理施設等の修景整備に努めます。
- ◆ 水質に関しては、現在の良好な水質を維持するとともに、面源負荷に対しても関係機関と調整・協議して、流域全体で更なる水質の改善を目指すこととしている。

# 1. 本明川流域の概要〔本明川総合水系環境整備事業の概要〕

## ＜事業評価(再評価)対象事業の概要＞

◆今回は、現在事業を実施中の天満・永昌地区の水辺整備について事業評価(再評価)に諮るものである。



## 2. 天満・永昌地区の概要〔継続箇所〕

### <継続箇所の概要>

#### (1) 事業の必要性等(面的整備)

- ◆諫早市では、令和4年度九州新幹線(西九州ルート)の開業目標に向け、**本明川沿いを安全に楽しく巡ることができる歩行者ネットワークの確保**などを掲げた諫早駅周辺整備基本構想や諫早駅周辺整備計画に基づく再整備、中心市街地活性化等を進めている。
- ◆当該地区は諫早市中心市街地に位置するものの、**河川敷に降りるための階段が急勾配**であること、**一連区間において管理用通路が整備されていない**ことから、**安全に散策できない**状況である。



- ◆天満・永昌地区に位置する本明川の水辺空間を活かして**管理用通路及び階段を整備**することで、**地域の活性化や安全安心に資する**とともに、**河川巡視や河川管理の円滑化、河川利用の安全の向上を図ることが可能**である。



安全に散策できない状況



安全に昇り降りがしにくい状況

【整備前の状況】

## 2. 天満・永昌地区の概要〔継続箇所〕

### (1) 事業の必要性等(拠点整備)

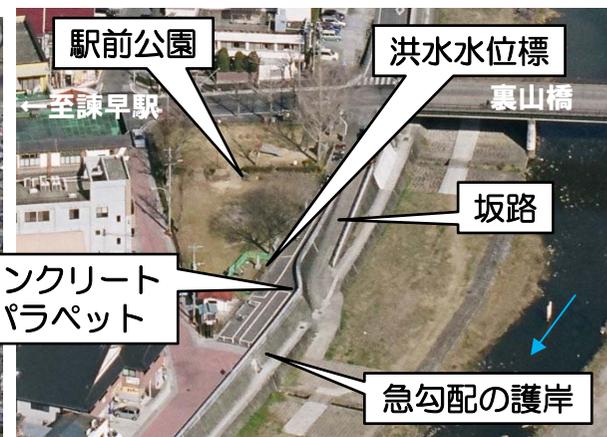
- ◆ 諫早駅に最も近い本明川に隣接する「駅前公園」は諫早大水害の痕跡を示す洪水水位標が設置され、**水害の歴史を再認識できる重要な場所**である。
- ◆ 令和4年度新幹線諫早駅開業に向け、管理用通路の整備も含め、諫早駅周辺整備等、新幹線開業効果を最大限に引き出すための様々な取り組みが行われるなか、「駅前公園」は**諫早駅利用者等を本明川へ導く玄関口**として期待され、「本明川」と一体となった**新たな賑わいの拠点整備のニーズが高まっている**が、駅前公園と本明川は、**急勾配の護岸やコンクリートの堤防(パラペット)**で分断され、水辺に親しみににくく、賑わいの創出が図れていない状況である。
- ◆ 近年の洪水の発生状況等を踏まえ、洪水時に河川内に流入、**堆積した塵芥及び流木の集積、搬出等、維持管理機能の強化が必要**となっているが、天満・永昌地区では坂路等が狭く**大規模な塵芥等を搬出等を行える場所がない**。



洪水水位標



流木の堆積状況  
(S32.7諫早大水害)



駅前公園の現状

- ◆ 駅前公園の立地を活かして、水辺に近づきやすい**堤防や坂路、高水敷整正等の整備**により**新たな賑わいの拠点が創出**され、多くの人が駅前公園周辺に訪れ、水辺を楽しみ、水害の歴史を感じることができ、**塵芥等の搬出等の維持管理機能の強化も図ることが可能**となる。 7

## 2. 天満・永昌地区の概要〔継続箇所〕

### (2) 事業の概要・目的

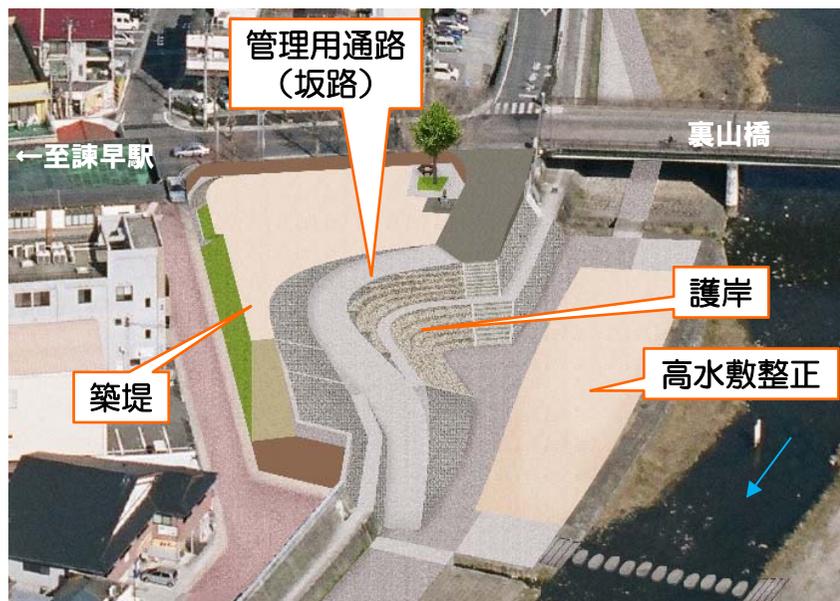
- ◆地域活性化や河川景観の保全を図るとともに、河川利用者の安全性やアクセス、維持管理の向上を図るため、管理用通路や階段、護岸(緩傾斜)等の面的整備を行う。(H29年度完了)



## 2. 天満・永昌地区の概要〔継続箇所〕

- ◆ 駅前公園と本明川が一体となった新たな賑わいの場の創出と河川利用者の安全性やアクセス、維持管理の向上を図るため、高水敷整正や護岸、管理用通路(坂路)等の拠点整備を行う。

### 【整備イメージ(拠点整備)】



### 【概要】

位置	本明川3k200～6k200
事業区分	水辺整備
主な整備内容	面的整備:管理用通路、管理用階段、護岸、モニタリング調査 等 拠点整備:高水敷整正、護岸、管理用通路(坂路)、築堤、モニタリング調査 等
事業費	7.5億円
整備完了年	令和4年度
事業期間	平成25年度～令和9年度

### 【工程表】

工種	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
管理用通路	■	■	■	■											
管理用階段	■	■	■												
護岸					■										
高水敷整正等									■	■					
モニタリング調査						■	■	■			■	■	■	■	■

## 2. 天満・永昌地区の概要〔継続箇所〕

### (3) 事業の現状

- ◆平成29年度に完了した面的整備区間では、通勤、通学、散歩などの日常の利用や諫早神社や諫早公園等の諫早市の歴史あるスポットへのルートでもあり、また、子供たちの野外学習や諫早万灯川まつりや、流鏝馬等のさまざまなイベントに活用されており、地域住民等による清掃も行われている。



管理用通路利用状況

通勤、通学、散歩など日常的にも利用されている。年間の河川空間利用者数も15年前から約5倍に増加、管理用通路整備後急増している。



野外学習状況

春の流鏝馬  
100年ぶり、本明川の河川敷でやぶさめ奉納が復活。  
無料  
みんな集まれ！ 子供やぶさめ体験、馬とのふれあい体験！



#### ◆流鏝馬

管理用通路等の面的整備により、堰で分断されていた諫早神社と下流の河川敷が繋がり、上下流の周遊ができるようになったことに起因し、本明川の河川敷でやぶさめ奉納が100年ぶりに復活。(平成30年4月～)



地域住民等による清掃状況

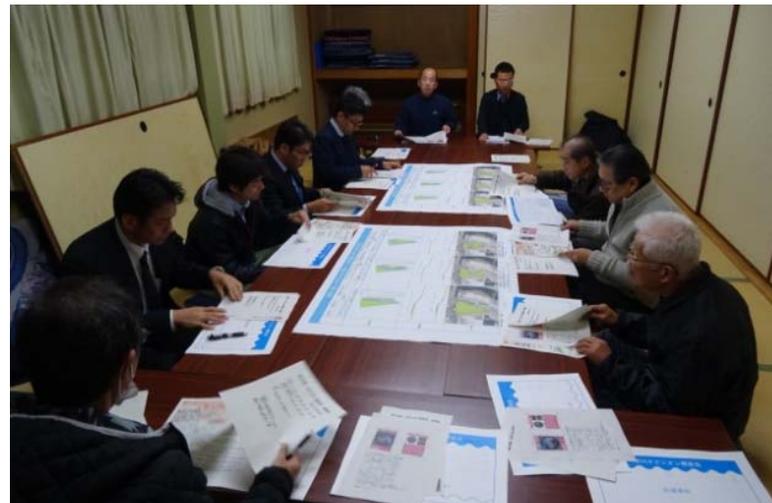
## 2. 天満・永昌地区の概要〔継続箇所〕

### (4) 事業の推進体制

- ◆平成24年4月から地域住民や学識者、諫早市、国土交通省等から構成される「本明川河川利用懇談会」を設立し、整備内容や河川空間利用者の安全性の向上等、様々な議論を経て実施している。
- ◆平成28年度には、新幹線開業に向けて中心市街地のさらなる賑わいづくりを支援するため、駅前公園と本明川の一体整備(拠点づくり)について、本明川で長年河川愛護活動を続ける「本明川オピニオン懇談会」において整備内容や利活用に関する検討を行った。
- ◆整備箇所においては、「本明川河川利用懇談会」及び「本明川オピニオン懇談会」等を通して、地域の活性化や取り組み、利用者の安全や維持管理等に関する協議を行っており、引き続き地域の協力体制が見込まれる。



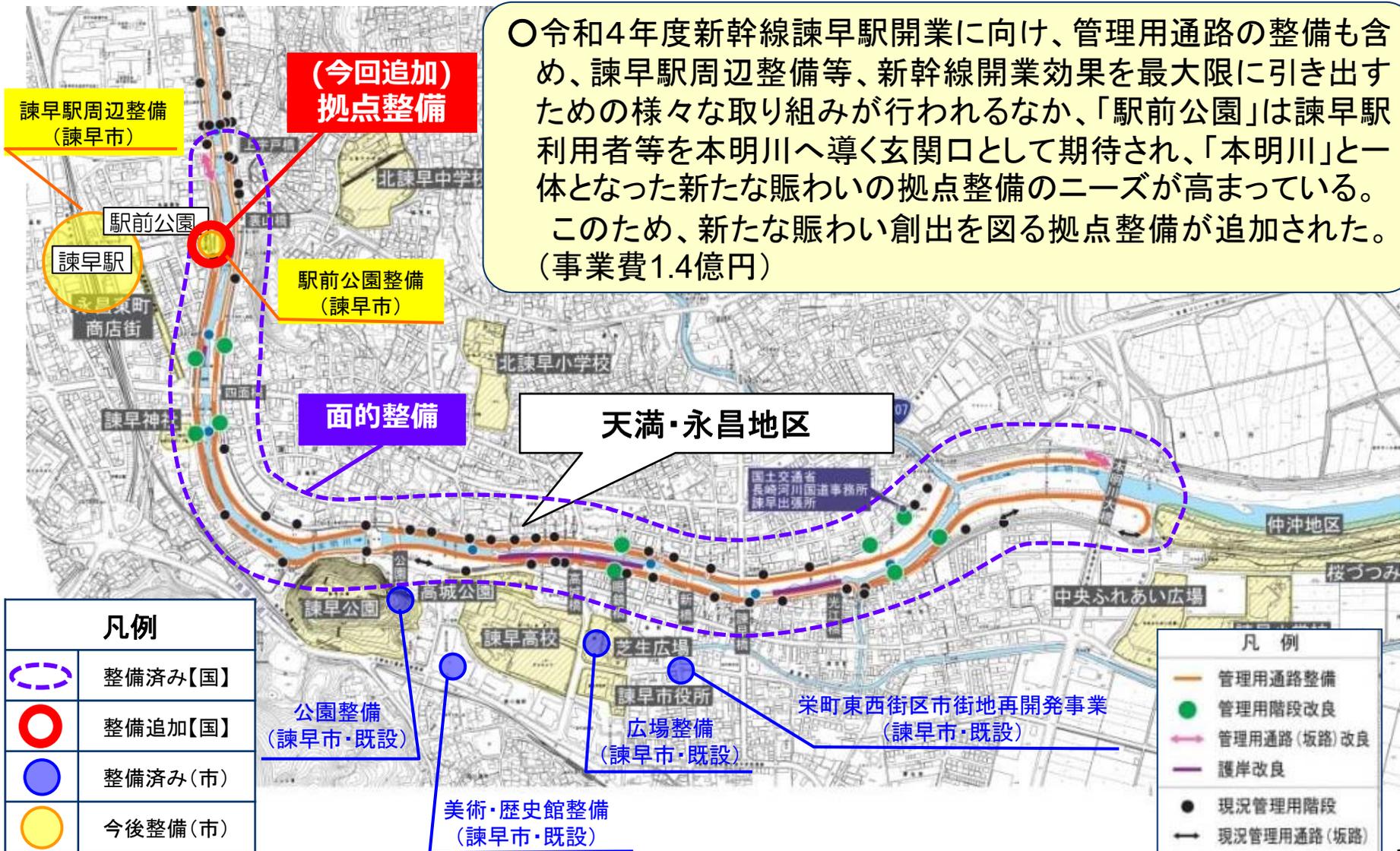
「本明川河川利用懇談会」会議状況



「本明川オピニオン懇談会」会議状況

# 3. 前回評価時からの変化

※天満・永昌地区における駅前公園周辺の拠点整備(高水敷整正等)の追加



### 3. 前回評価時からの変化

項目	前回評価時 (平成29年度)	今回評価時 (令和2年度)	変更理由
総事業費	約14.5億円 仲沖・新地地区:約8.4億円 天満・永昌地区:約6.1億円	約15.9億円 仲沖・新地地区:約8.4億円 天満・永昌地区:約7.5億円	天満・永昌地区の整備追加による事業費増額及び事業期間延伸に伴う変更
事業完了年	令和2年度	令和9年度	
B/C	1.6	1.8	
B(便益)	34.4億円	45.2億円	
C(費用)	20.9億円	25.8億円	

※B/Cの算出は、便益を費用で除算することにより算出する。便益はアンケート調査によって求めた年支払い意思額と便益が及ぶ世帯数を積算し、これを社会的割引率を考慮し完成後50年分を足し合わせるにより算出する。費用は社会的割引率等を考慮した事業費と完成後50年分の維持管理費を足し合わせるにより算出する。

## 4. 事業の投資効果〔費用対効果等〕

### ＜費用対効果等＞

	事業費	主な整備内容	便益B	費用C	B/C
全事業	15.9億円	—	45.2億円	25.8億円	1.8
完了箇所	8.4億円	—	19.1億円	16.1億円	1.2
水辺整備	8.4億円	—	19.1億円	16.1億円	1.2
仲沖・新地地区	8.4億円	高水敷整正、管理用通路、 護岸、水制	19.1億円	16.1億円	1.2
継続箇所	7.5億円	—	26.1億円	9.6億円	2.7
水辺整備	7.5億円	—	26.1億円	9.6億円	2.7
天満・永昌地区	7.5億円	管理用通路、管理用階段、 護岸、高水敷整正、モニタ リング調査 等	26.1億円	9.6億円	2.7

	アンケート 実施時期	アンケート 配布数	有効 回答数	集計範囲	集計対象 世帯数	支払い意思額 (円/月・世帯)
仲沖・新地地区	平成20年度	1,050	241	半径10km圏内	28,731	174
天満・永昌地区	令和2年度	2,000	375	半径10km圏内	36,588	291

## 4. 事業の投資効果〔まとめ〕

### 《効果名》

### 【効果の概要】

①便益の算出：約45.2億円

（良好な景観の形成、人と自然の豊かな触れ合い活動の場の確保、河川空間利用の増進等）

②歴史的文化を活かした教育効果：諫早神社、諫早公園（眼鏡橋）等と一体となった  
利用の場の創出

P8、10

③地域のにぎわいの創出：水辺イベントの開催の場  
地域のイベント時の観覧場所として活用

P8、10

④治水安全性の向上：河川空間の利用者の安全性向上、巡視・管理の円滑化

P8、9

⑤良好な自然環境の保全：地域が主体となった河川周辺の除草・清掃活動  
河川を活用した野外学習（水生生物調査等）

P10

⑥費用対効果分析（算定に用いた効果①）

全体事業（B/C）：1.8

継続事業（B/C）：2.7

## 5. 事業の進捗の見込み・コスト縮減や事業手法、施設規模等の見直しの可能性

### (1) 今後の事業展開

- ◆天満・永昌地区においては、地元自治体や地域住民等と協力して事業を進め、平成25年度に事業に着手し、**平成29年度に管理用通路等面的整備を完成させ**、現在モニタリング調査を実施中である。令和3年度以降は駅前公園周辺の拠点整備を実施し、令和4年度に整備を完成、令和5年度からはモニタリング調査を実施し、令和9年度に完了予定である。

### (2) 今後の事業の進捗の見込み

- ◆天満・永昌地区では、平成24年4月より地域住民や諫早市、国土交通省等により構成された「本明川河川利用懇談会」が継続的に開催されるなど、地域の協力体制が整備されており、**今後も順調な事業進捗が見込まれる。**

### (3) 事業手法、施設規模等の見直しの可能性

- ◆天満・永昌地区の整備内容については、計画段階から「本明川河川利用懇談会」及び「本明川オピニオン懇談会」において協議を重ねた上で、河川管理面、河川利活用面等を考慮した上での適切な整備内容となっている。
- ◆諫早市は、新幹線効果を更に高めるため、**まちづくりを具体化する「諫早地域活性化検討委員会」**を立ち上げ議論しており、事業の見直し等の必要があれば河川管理者としても**新たな事業展開に対して積極的に支援していく。**

### (4) コスト縮減の方策

- ◆近年の技術開発の進展に伴う新工法等の採用による**新たなコスト縮減の可能性等を探りながら、事業を進めていく方針である。**

## 6. 対応方針(原案)(案)

- ◆諫早市では、隣接する諫早駅周辺において、本明川沿いを安全に楽しくめぐることができる歩行者ネットワークの確保などを掲げた諫早駅周辺整備基本構想や諫早駅周辺整備計画に基づく再整備、中心市街地活性化等を進めており、天満・永昌地区では安全で安心して利用出来る河川空間の整備を強く望まれている。これまで管理用通路等の面的整備を行っており、新に「駅前公園」と「本明川」が一体となった賑わいの拠点整備のニーズが高まっており、引き続き、駅前公園周辺での高水敷整正、坂路改良、階段工等の環境整備事業を行うものである。
- ◆平成24年4月から地域住民代表、諫早市、国土交通省等が参加する「本明川河川利用懇談会」を開催し、整備や利活用・維持管理等に関する活発な議論を経て、日常的な施設管理、清掃等については、地域住民、諫早市により実施するものとされた。以上により、地域の協力体制が築かれている。
- ◆事業を実施することにより、安全で安心な水辺空間の形成が期待でき、費用対効果についても確保されている事業であることから、引き続き事業を継続することとしたい。